

特別講演

主催 埼玉医科大学 院内緩和ケア研究会, 後援 埼玉医科大学 卒後教育委員会
平成18年12月26日 於 埼玉医科大学 総合医療センター 5F 小講堂

第9回院内緩和ケア研究会 緩和ケアにおける看護の役割と機能

岩崎 紀久子

(高崎健康福祉大学 看護学部 教授)

緩和ケアの領域において、重要なことは、看護師がどれだけ日常生活の援助者となれるか。緩和ケアにおける看護師の役割と機能として、症状コントロール、コミュニケーションを大切にする、家族へのケア、チーム内コーディネーター、療養の場の調整があげられる。

I, 症状緩和において看護師に求められる能力

- 1) 症状, アセスメントの能力の向上
- 2) 身体症状が, 患者の精神的, 社会的, 霊的に及ぼす影響をよく把握する必要がある
- 3) 基本的な日常生活援助技術の提供

II, 看護独自の機能

- 1) コミュニケーションスキルの活用
- 2) 様々な不快症状に対する看護技術の活用

III, 生きることを支えるケアについて

- 1) 患者のおかれた状況を考慮しできることを支援する。あるがままの患者の状態をもとにして、援助のあり方を考える必要がある。
- 2) 援助を最後まで継続する。これはスピリチュアルケアにも結びつくことである。その人が生き

ている意味があること、生きる価値のある人間であることを伝え続けることが重要である。

IV, 認定看護師制度について

日本看護協会認定看護師制度は、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる認定看護師を社会に送り出すこと。

1) 認定看護師の役割として

- 1, 特定の看護分野において、個人、家族および集団に対して、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する。(実践)
- 2, 特定の看護分野において、看護実践を通して看護者に指導を行なう。(指導)
- 3, 特定の看護分野において、看護者に対しコンサルテーションを行なう。(相談)

現在2486名の認定看護師が活躍している。乳がん、認知症など新しい分野へも広がっている。多くの認定看護の誕生により看護ケアの広がりや質の向上が期待される。

(文責 看護部 布谷玲子)